

### CONTENTS

中学校第1回卒業生のラジオ対談	1
同窓会会員からのメッセージ	2・3

### 湘南学園同窓会活動報告

「過去から現在、未来へ広がる学園の歩み」展
平成17年度同窓会会計報告・その他

## 中学校第1回卒業生のラジオ対談

2007年(平成19年)1月3日(水)と4日(木)の二日(各45分)にわたって、NHK第1放送およびFMの同時放送、「ラジオ深夜便・こころの時代～新しいライフスタイルへの夢と現実～」で、第1回湘南学園中学校卒業の鈴木健次氏と森稔氏の対談がありました。お話のポイントは、「Beautiful Dreamer 森稔」で、お二人から「夢」に対する思いをご寄稿いただきました。

六本木ヒルズなどの建設によって東京の再開発を実現した森稔さんの業績は、いまや知らぬ人はいない。反面、赤坂や六本木から庶民を追い出して金儲けの街にしてしまった強引なやり手、といったイメージをもつ人もいるようだ。回転ドアの事故やヒルズ族逮捕で、マスメディアがそういう森稔像を拡大しようとした観もある。事故のあと、友人だということで月刊誌などから森さんについてしつこく取材された。私は、土地にへばりついている日本の住まいを大空に羽ばたかせ、職・住・文化・遊びが近接する新しいライフスタイルを実現することは、彼が追い続けている夢であり、森稔の本質は夢みる人なのだと強調したが、記事は先入観を塗り固めるために人の発言を利用しているだけだった。

私はNHKで働いたので、メディアに関わる者がいかに熱心に仕事に取り組んでいるかを知っている。しかし同時に、そこで作り出される情報が危険な両刃の剣であることも実感した。多くの情報が簡単に手に入る時代になったが、それがどう作り出されているのかをよく考え、情報を見分ける目を持つことが、これからの若い人には大切だと思う。

番組では、人間・森稔の実像をぜひ多くの人に知ってもらいたいと考えた。多忙な森社長が私の父の葬儀に来て、涙を流して弔ってくれたことがある。六本木ヒルズの着工式でも森社長はこみ上げる思いで涙した。六本木ヒルズは経済力だけではなく、森さんが多くの困難に遭遇しながら、文学青年時代だった若い頃の細やかな感性を失わず、美しい夢を追い続けてきたからこそ実現したのだということを、若い人にぜひ考えてもらいたい。

鈴木健次

### 鈴木健次氏のプロフィール

昭和24年度湘南学園中学校第1回卒業・東京大学教養学部卒業  
学園在学中の部活動：卓球部（食糧難の時代で、試合後に食べるサツマイモをリックで担いでいった鶴中との定期戦が懐かしい）



現在：NHK会友／大正大学名誉教授  
座右の銘：とうとうとてんしんにまかせ 騰々任天真（良寛の詩の一節。理想であって、現実はなかなかこうはいかない）  
趣味：3つのGO（囲碁、英語、ゴルフ。ただし現在はどれもご無沙汰気味）。  
好きな歌：音大を出てすぐ学園に赴任された美しい（お声も）甲斐尚子先生。先生が歌ってくださった「歌の翼」が今も耳に残っている。

### 「夢と友と～ラジオ対談に寄せて」

湘南学園の同級生の鈴木健次さんに誘われて、NHKのラジオ深夜便で対談をさせていただいた。鈴木さんは一緒に同人誌をつくった仲間である。鈴木さんはNHKへ、私は都市づくりへと異なる途を歩んできたが、会えば互いに昔に戻って会話が弾む。

そんなわけで、マイクを前にしてもあまり緊張せず楽しく語り合うことができた。振り返れば、鈴木くんの卓越した話術に乗せられて、丸裸にされてしまった感もある。

そのとき、夢の話になり「大きな夢を実現するには現実的でなければならぬ」という話をしたが、学生時代は、まず、自由に大きな夢を描く時代ではないかと思う。湘南学園にはそんな環境があった。自由な校風とよい先生方に恵まれ、皆のびのびと夢を描いていたように思う。「夢はいつまでも同じではない、育っていくものだ」とも申し上げた。これは自分自身の生き方や都市開発の仕事を通じての実感である。

小説家の夢を抱いていた私は、大学時代に父を手伝って現在の仕事に入ったが、心の隅に小説のネタ集めといった野心があった。しかし、飛び込んだ世界は「事実は小説より奇なり」。さまざまな価値観をもった人々に接し、そこに渦巻く人間模様を垣間見て、多くの人生に関わる都市づくりの醍醐味を知り、いつのまにか「紙」ではなく「大地」に夢を描くことに夢中になっていった。

後輩諸君へ。

大きな夢を描きたまえ。

夢が変わることを怖れなくてもいい。

自分の成長とともに夢も育つのだから。

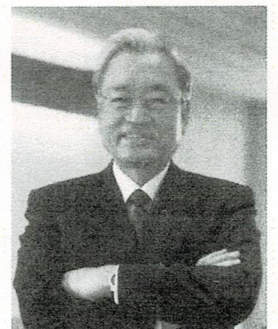
そして、夢を語り合う友を持ちたまえ。

君の生涯の宝になるはずだ。

森 稔

### 森 稔氏のプロフィール

昭和24年度湘南学園中学校第1回卒業  
東京大学教育学部卒業  
学園在学中の部活動：図書クラブ  
現在：森ビル株式会社代表取締役社長  
座右の銘：竜になれ 雲自ずから集まる  
趣味：ゴルフ  
好きな歌：「北の宿から（都はるみ）」



## 同窓会会員からのメッセージ

平尾昌晃・歌手・作曲家

昭和24年度小学校第16回卒業

昭和27年度中学校第4回卒業

平尾昌晃君から、藤沢市でチャリティコンサートを開催したいので手伝ってくれと云われたのは一昨年のクラス会（「SEASID EVOL.13」で紹介）の時、佐藤允君と一緒にした。

いうまでもなく平尾君は著名な歌手、作曲家であり、また大勢の後進を育てている指導的立場の音楽家ですが、今回ご紹介したいのは彼の社会福祉活動についてです。

彼は30有余年前から毎年チャリティゴルフを開催、そこで集めた善意の協賛金を母体として設立したNPO法人ラブ&ハーモニー基金により、毎年各地で老人や障害者の方達に対して、施設の慰問やコンサート開催を行い、福祉団体等へ支援金及び用具等の寄贈活動を続けています。

彼は小学生の頃から、エンターテイナーとしての才能が豊かで、休み時間なんかを利用して、教室で私達に落語や物まねを聞かせてくれたものでした。中学2年の時、今でいう特養施設に慰問に行き落語を一席演じ、お年寄りのみなさんから大歓迎を受けたことが、つい昨日のこのように思い出されます。

これが彼のチャリティ活動の原点だったのかも知れません。

来る11月13日（火）14時30分から、彼が少年時代を過ごした藤沢市の市民会館大ホールで、湘南学園他にご後援を頂き、「出逢い☆ありがとうライブin湘南チャリティコンサート 平尾昌晃と共に！」（全席無料・登録招待）を開催することになりました。ボランティアでお手伝い頂ける方、同窓会事務局あてにご連絡くだされば幸いです。

高嶋 浩（チャリティコンサート実行委員会委員長）



### 平尾昌晃氏からのメッセージ

私が理事長をつとめているNPO法人ラブ&ハーモニー基金では、チャリティゴルフやコンサート等の開催を通して集めた善意の浄財をもとに、各地区において、お年寄りや障害者、その介護者およびご家族をご招待してコンサートを開催、あるいは各施設を慰問する等、音楽を通して感動・勇気・元気を共感していただくよう、さまざまな活動を展開しております。

このたび、思い出がたくさんあるふさと藤沢市でチャリティコンサートを開催することとなりました。

母校湘南学園の同窓生、PTAのみなさまには、いろいろな面でご支援ご協力を頂きたく、よろしくお願いたします。

別府倫兄・順天堂大学客員教授・別府病院院長

藤沢市民病院非常勤副院長

昭和30年度小学校第22回卒業

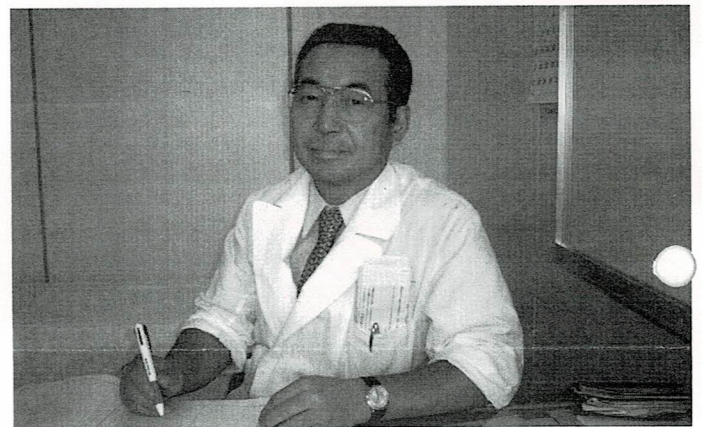
昭和33年度中学校第10回卒業

還暦を過ぎて

小学校2年（7歳）から中学3年（15歳）までの8年間在園した。学園時代のことは断片的であるが、鮮明に記憶がある。学園歌は今でもそらで歌える。インクがろ紙に染みてゆくように、良いこと悪いことすべてを吸収した年頃だった。小生は身体も小さく内気な生徒で、気になる女の子に声をかける勇気もないまま時が過ぎていった。

あれから50年、還暦を過ぎ、忍び寄る老いを自覚する年になった。学園時代のことはよく覚えているのに、最近は何の名前が出てこなくなった。脳細胞脱落が進んだのか不安がよぎる。昨年、小学校3年時の担任であった岩淵貞子先生を囲む集いがあり、学園時代の教え子30人ほどが集まった。先生は80歳なのに生き生きとしておられ驚嘆した。皆の情報で同級生のほとんどは健在で、亡くなった仲間は7人と判明した。

信長が愛唱した謡「敦盛」に「人間50年、下天の内をくらぶれば夢幻のごとくなり。ひとたび生を得て滅せぬもののあるべきか」の1節がある。室町時代、人々の寿命は50歳くらいだったのであろう。われわれが生まれた太平洋戦争の頃も、平均寿命はまだ50歳であった。戦後の栄養の改善、医学の進歩で、現在の日本人の平均寿命は男性78歳、女性85歳で、世界一の長寿国となった。65歳以上を老年と言うが、平成17年の老年人口は2682万人（21%）と過去最高となった。



### 白衣姿の別府さん 診察室にて

予想では2050年までに3人に1人は高齢者となる。

本格的な高齢化社会の到来であるが、老後は人に迷惑をかけず、好きな趣味でも楽しんでぼくりと逝きたい。しかし、現実には残酷だ。呆けてしまうか、呆けないまでも脳障害を来して寝たきりの老人になってしまうのだ。健康人の命が脳障害を来した人の命より価値が高いと言うつもりはないが、脳機能が脱落すると人間らしさがなくなる。

かつて哲学者デカルトは、人間を「心を持った機械」と言った。パスカルは、「人間は考える葦である」と言った。その意は「心」とか、「考える」ことこそが人間の人間たる証しだと言っているのだ。還暦を過ぎて馬齢を重ねるのは凡人の証しのように美しくないが、出来れば脳が機能して、喜び悲しみ笑える人間として生き延びたい。

## 同窓会会員からのメッセージ

北川洋子・言語聴覚士

昭和38年度小学校第30回卒業

昭和41年度中学校第18回卒業

昭和44年度高等学校第18回卒業

小学校4年から学園で8年を過ごしました。私を友達、歌、バレーボール、英語へと導いてくれた学園の全てに感謝しています。人生の途中では様々な事柄に出会いましたが、周囲の良き人々の存在を得ることで、自分自身が最も活かされることを感じています。

現在は、言語聴覚士として所沢の防衛医大にて働き、毎日患者さんや学生さんに囲まれて過ごしています。こうした日々を送ることができることになったのも、出会った全ての人々、そして育ててくれた家族のお陰と感謝しています。

後輩へのメッセージ

皆、それぞれ境遇は異なりますが、夢を捨てずに信念をもつ



後列右から2番目が北川さん

防衛医大耳鼻科の会報に掲載された時の写真

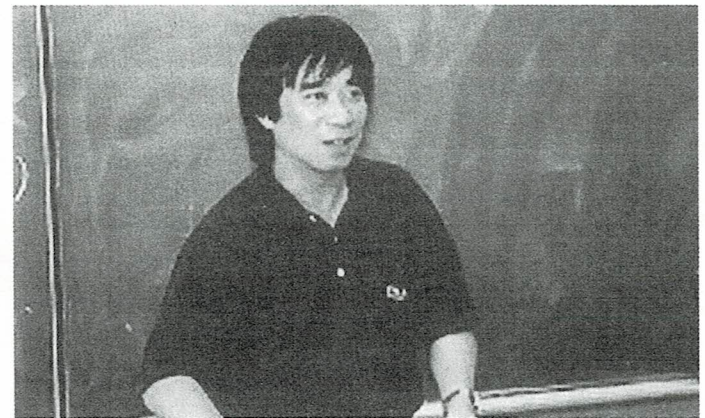
に進んで下さい。そして、何もできずに涙を流す時も、明日のために祈りを捧げるだけでも良いと思います。

芹沢 洋・高等学校社会科教諭

昭和50年度高等学校第24回卒業

校舎を抜ける潮風、個性豊かな先生方の授業。規律は厳しくともリベラルな学校の精神、何より生徒も先生方もゆとりを持ち、それが明日への活力となるような活気のある高校時代であった。先日、私は3年間の思いを胸に卒業生を送り出した。学年途中で父が倒れ、痰の吸引のため、夜通し家族で介護にあたった。1日3時間の睡眠がやっとの中、仕事と生活の両立は体力を越えて、精神力との闘いとなった。生徒たちに対しても全力投球ができなかったかもしれない。その父は7ヶ月後、孫息子の顔を愛しく見つめ、おだやかに逝った・・・。

呼び名を終え、席に戻ろうとした時、姿勢を正したクラスの生徒からの「ありがとうございました。」の言葉に心が洗われ、涙が溢れてきた。苦しくとも3年間やってきて本当に良かったと感じた。3年の時、クラスのある生徒が「挫折禁止」という標語を作り、それはやがて、皆の寄せ書きの色紙となった。私も何度かその言葉を自分に投げかけた。人は誰でも失敗もし、挫折そうになる時がある。そんな時、目標に向かって挑戦する



神奈川県立深沢高等学校で教壇に立つ芹沢さん

気持ち、あきらめない気持ちをよびおこすのに心に響く言葉だと私は感じる。

学生の皆さん、人とのふれあいを大切に、自分に責任を持ち、時に自然と対話して、目標をもった豊かな人生を築いて下さい。

田沼広之・ラグビー日本代表・リコーブラックラムズ

昭和63年度中学校第40回卒業

平成3年度高等学校第40回卒業

自分は湘南学園で“ラグビー”というスポーツに出会いました。はじめた当初は、ルールもまったく分からずただ仲の良い友人たちとボールを持って走り回っているだけでした。その時はまさか現在までラグビーをするなどという事はまったく思いもしませんでした。このラグビーとの出会いで自分は、多くのすばらしい経験をして多くの仲間と出会うことが出来ました。今ではその全てが自分の財産であり、生活していく上でとても大切なものとなっています。

人は色々なところで色々な経験をして、たくさんの人々・物事に会うのだと思います。その時には気がつかないかもしれませんが、その経験や出会いが後々の自分に大きな影響を与える事があると自分は思います。

後輩へのメッセージ

これから皆さんも卒業されていていろいろ不安や期待があると思



代表キャップベスト10の田沼さん

2006-2007トップリーグ最終戦 VS. ワールド戦

いますが、是非多くの事にチャレンジし、たくさんのお会いをして下さい。もちろん、この湘南学園での経験、出会った仲間も大切にしてください。

卒業おめでとう！

### 湘南学園同窓会活動報告

#### 「過去から現在、未来へ広がる湘南学園の歩み」展

2006年9月30日(土)・10月1日(日)、「パレット～スケッチブックに描くみんなの個性」をテーマとした第56回湘南学園学園祭に、同窓会として参加させていただき、「過去から現在、未来へ広がる学園の歩み」展を開催しました。

会場は、メディアエリア3階の中学2年A組の教室と廊下を借用し、①二つの学園歌・校章、②宮下先生の訓、③敷地と校舎の変遷、④懐かしき学校行事、⑤思い出の入学式・卒業式、⑥創設期のPTA、⑦鶴沼夏期自由大学、⑧懐かしき先生の面影、⑨同窓会会員からのメッセージ、⑩学園の沿革、⑪学園の教育、⑫学園年表、⑬スライドショーで見る学園等をテーマに写真・図表・解説文による展示(データについては、昨年、鶴沼市民センター内鶴沼郷土資料室で開催された「なつかしき学舎 その2 湘南学園」のデータ転用を鶴沼郷土資料室運営委員会のご許可のもとに)とともに、学園通信や文集などの刊行物も展示しました。

昨夏8月上旬に、30代から70代の学園大好きな“学園っ子”(同窓会常任幹事並びにサポーター)が集い、「学園を懐かしむとともに、現在の学園を見守り、未来にはばたく学園を応援しよう」と、今回の展示を企画しました。

過去にも学園祭の時に写真展を開催しましたが、幅広い資料



展示会場風景

による展示は、今回がはじめてのことで、学園のご理解と多様なご協力のもと、理事の方々をはじめ、教職員、在校生、保護者の方々、同窓生、ご近所の方々、さらに学校説明会参加者の方々(来年度学園入学希望の方)など500名を超える来場を得ることができ、学園の吸引力の強さをあらためて感じました。

平成19年度も継続して、学園祭に同窓会として参加させていただきたいと考えておりますので、同窓会会員の方も今回以上に大勢の方が会場に足を運んでいただければ幸いです。

会長代行 中嶋 登(副会長)

#### 平成17年度同窓会会計報告

平成17年度(平成17年4月1日～平成18年3月31日)の収支について、次のとおり、報告いたします。ご承認いただきますようよろしくお願い申し上げます。なお、収入の部で年

【収入の部】 単位=円

科 目	金 額	内 訳
前期繰越金	5,132,072	
入会費	384,000	57人×6,000 14人×3,000
年会費	104,000	52人×2,000
名簿代	54,000	12人×4,500
広告代	30,000	同窓会名簿掲載広告
寄附金	50,000	
仮払い清算金	8,640	
雑入	22	預金利息
今期収入計	630,662	
収入合計	5,762,734	

#### 高等学校卒業生への記念品贈呈

2007年3月10日(土)、第55回高等学校の卒業式が挙行され、今年も同窓会から祝卒業記念品(卓上デジタル時計)を贈らせていただきました。

#### 同窓会会費等の納入

今年度につきましては、郵便局専用振り込み用紙のみを同封しましたので、原則として郵便局へご氏名・ご住所明記のうえ、ご納入ください。銀行振り込み(有料)が都合の良い方は、横浜銀行鶴沼支店普通預金0063210湘南学園同窓会へお振り込み下さい。また、同窓会名簿(4,500円送料含む)購入希望の方は、ご氏名・ご住所明記のうえ、同窓会事務局へファックス(0466-82-8882)でお申し込みください。

会費納入が前年度に比べ少額となっていますのは、同窓会会報「SEASIDE VOL.13」の発行(振り込み用紙送付)が3月末となったため、平成18年度に入ってからの納入が多いからです。

【支出の部】 単位=円

科 目	金 額	内 訳
会報仮払い	900,000	印刷費・郵送費
事務費	84,000	高等学校卒業生記念品
通信費	63,102	
事務費	66,299	同窓会事務運営費
会議費	20,283	同窓会常任幹事会賄料
寄附金	50,000	学園祭開催時の生徒会への寄付
今期支出計	1,183,684	
次期繰越金	4,579,050	
支出合計	5,762,734	

#### 同窓会事務局の所在地

湘南学園同窓会の事務局(会長代行宅)の所在地については、暫定的ですが、住所変更等がありましたら、ファックス(0466-82-8882)でご連絡ください。

#### 編集後記

本号では、70代から30代までの各年代の会員の方から、後輩へのメッセージなども交えてご寄稿いただきましたが、お忙しい中、ありがとうございます。

いみじくも「愛・夢・友」が共通のキーワードです。私たちの原点、“湘南学園”。何時でも、何処でも、そして、いつまでも「もとうよ歌をくちびるに!もとうよことばを友だちと!」。

湘南学園同窓会常任幹事一同